

2026 年度 一般選抜Ⅱ期(2/20) 国語 出題意図

大問一 出題意図（問題一全体）

問題文は、他者に対する自己の在り方を、パレスチナ問題等の具体例を交えて論じた文章である。防衛力を高め他者を威嚇する「緩衝材に覆われた自己(バッファードな自己)」と、境界を踏まえつつ他者に開かれた「多孔的な自己」を対比させ、物理的・心理的な「壁」がもたらす他者への想像力の欠如と分断の危険性を警告する筆者の論理展開を深く理解する力を求めた。

出題意図（個別問題）

問一：文脈に応じた適切な漢字（迫害、帰属、容認）を選択する語彙力を問うた。

問二：空所補充。他者を信じず力で支配する傾向を表す概念（帝国主義や自国中心主義など）を文脈から推測する力を問うた。

問三：品詞の識別。文中における語句の品詞（副詞や形容動詞など）を構造的に識別する文法力を問うた。

問四：概念の理解。「脆弱性（ヴァルネラビリティ）」が単なる弱さではなく、隙を見せて他者に手を開く（開かれた関係性）という意味で用いられていることを読み取る力を問うた。

問五：対比関係の把握。近代以前の開かれた「多孔的な自己」と、他者を排除する近代的な「バッファードな自己」の対比構造を正確に補う力を問うた。

問六：内容合致。本文の主題（分断の弊害や想像力の重要性）と整合しない選択肢を見抜く読解力を問うた。

問七：記述問題。「分離壁を壊さなければならない」理由について、物理的な壁が人々の交流を断ち、互いを理解し合う心を隔ててしまうためであることを的確に説明する能力を求めた。

大問二 出題意図（問題二全体）

問題文は、人間の活動が地球環境に不可逆的な影響を与えた時代「人新世」について、地球科学および生態学の視点から論じたものである。経済（エコノミー）と生態学（エコロジー）が同根であることを踏まえ、自然を搾取の対象としてではなく、持続可能なシステムとして再統合し、人類が「思慮深い管財人」として振る舞うべきとする論旨を読み解く構想力を問うた。

出題意図（個別問題）

問一：文脈に応じた適切な熟語（超える、予測、提唱）を選択する表記能力を問うた。

問二：空所補充。「問題意識」を修飾する、現代社会の危機感を表す語（喫緊など）を補う力を問うた。

問三：理由・内容把握。「人新世」に込められた問題意識が、近代以降の人類の活動が地球全体に過大な影響を及ぼしていることへの危機感にあることを読み取る力を問うた。

問四：段落挿入。国際会議での認定プロセスの現状や将来的な警告に関する段落を、論理的な展開に沿って適切な位置に配置する構成力を問うた。

問五：概念の理解。「レジリエンス」という外来語が、社会や生態系の持つ「回復力」や「しなやかな適応力」を意味していることを文脈から把握する力を問うた。

問六：空所補充。経済と生態学を再統合する新たな発想としての「ニュー・エコロジー」を補う力を問うた。

大問三 出題意図（問題三全体）

同音異義語の正確な使い分けと、四字熟語の知識を問う問題である。

出題意図（個別問題）

問一：同音異義語「キコウ」（気候、紀行、気孔、寄稿、起工）について、それぞれの文脈や意味内容に合致する漢字を正確に選択する語彙力を問うた。

問二：四字熟語（起死回生、電光石火、暗中模索、岡目八目、同床異夢）の意味を理解し、提示された状況説明に最も適したものを選択する知識を問うた。